

7) PNL により胸水を起こした難治性腎結石の1例

森下 英夫・木村 元彦 (長岡赤十字病院)
泌尿器科
鳥居 哲 (燕労災病院)
泌尿器科
中嶋 祐一 (県立小出病院)

症例は41歳女性で、両側腎結石を有するが、ESWL や TUL で破壊されないため、1994年10月26日右腎結石に対して PNS+PNL を行った。その後11月1日にも PNL を行ったが、結石は硬く碎石に手間どり、2時間40分かかった。出血もあり、血清アルブミン5単位、PRC 5単位を投与した。帰室後全身状態良好で特に問題はなかったが、11月2日午前0時頃より前胸部違和感がみられ、

その後疼痛が出現した。午前7時頃には増加してきたため、胸部 X-P を撮り、右胸水の診断となった。午前8時胸部外科医師より右胸腔ドレナージを行ってもらい、1,800 ml の淡血性液を吸引・排出した。その後症状は軽快し11月4日には胸腔ドレーンも抜去し、経過は順調であった。

II. 特別講演

腹腔鏡下腎手術

小牧市民病院泌尿器科部長

小野 佳成 先生